

人 48 日本人の顔を持つ国際人

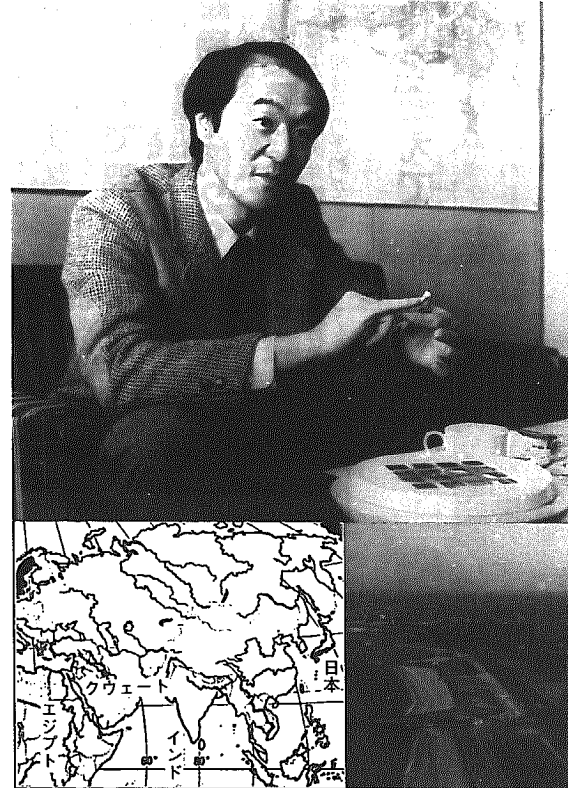
田代善明さん
上山田 三十九歳

田代善明さんの財布を見て驚いた。ドル、ウォン、バーツ、ポンド、ディナール、見たことのないお札がまわっている。それぞれアメリカ、韓国、タイ、エジプト、クウェートの紙幣だ。

「ターや通信機、電子器械などの修理も手がけ、現地で信頼と人脈を築く。昭和五十六年に工事は終わり帰国。数少ないアラビア語と英語が話せるエンジニアとして日

本企業の海外プロジェクトに参加する。アメリカ、東南アジアを回り、再び中東のクウェートへ。清涼飲料の支店に勤める。が、現地とのトラブルで開店してしまふ。

実は田代さん、石油の国クウェートから商用で一時期帰国したところ。マイルドセブンクエートというタバコ会社を経営している。今回は日本たばこ産業と昭和六十三年度のプランを練りに。「日本だけでなくあちこち行ってますから、いつも外国の金を持っていくんです」



上/田代さん。十数年間、日本を中東と往復し続けている。下/クウェート。中東のペルシア湾の北西岸にある面積1.6万km²、人口170万人(新潟県1.2万km²、人口250万人)の立憲君主国。石油を日本に輸出している。ガソリンは1ℓ16円、水が1ℓ300円という国。

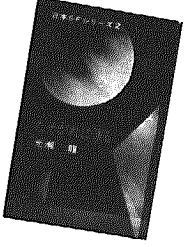
「外国でも日本人の顔でやるから現地の人と合わないわけです。特にアラブの世界は日本人にはわからない。支店が失敗するのを見て、日本もアラブも知っている自分だけが成功する」と確信を持っていた田代さん。日本たばこ産業がクウェートに進出する情報を得、名乗りを上げる。「大手の商社と競ったんですが僕の方を選んでくれた。資本はないけど、現地での実績と人脈が良かったんでしようね。六十一年に今の会社を設立し、たばこのほか弱電機を扱っている。「会社や国をいくつも変わりましたけど、技術と言葉、それから好奇心があれば人間どこでも生きていけるとおもいます。日本からクウェートまで十七時間。「一度ぜひいらしてください。世界はすぐそこです」。

広報の編集にご協力を

- ◆カットやイラストの描ける人
 - ◆四コママンガの描ける人
 - ◆インタビュアーやレポーターになりたい人
 - ◆本を紹介してくれる人
 - ◆簡単な英訳ができる人
 - ◆編集に興味を持っている人
- どうぞ、お気軽にお申し込みください。または、お知り合いを紹介してください。上手下手は問いません。薄謝ですがお礼させていただきます。申し込まれた場合は順次依頼させていただきます。また、楽しい話題や頑張りっている人もご紹介ください。
- ▼連絡先・役場企画開発課広報係
☎377・3101(内線46・52)

ほんの一冊 たそがれに還る

(早川書房、角川文庫)
光 瀬 龍



日本にSFが根づき始めた昭和三十一年代後半に出版された記念碑的な作品です。時は3700年代末ようやく人類が太陽系外へ本格的に進出しようとする時代に、未曾有の危機が人類に迫る。ツングースが隕石の謎や異星からの来訪者の話をからませながら、この危機を打開しようとする人類の苦闘が描かれます。冥王星の開発現場が1960年代高度成長期の日本でダブって見えたり、とことろで見られるシュールリアルスティックな光景が魅力的だったり。そして何より第四章「星と星々」での高揚感。膨張宇宙論について誤りはあるものの、その最後の一節を読むだけでも。

(人の動き)		前年比	前同月比
2月末日現在	(前月比)		
人口	22,837	(-12)	[+]
男	11,244	(-6)	[+]
女	11,593	(-6)	[+]
世帯	6,002	(-5)	[+]
2月1日～末日			
出生	24		
婚姻	2		
死亡	13		
転入	29		
転出	52		



来月号の表紙

あなたの「ご意見・ご要望」など町に対する「ご意見・ご要望」をお聞かせください。また生涯教育の特集を五月以降に考えている「ライフワーク」などについても、お聞かせください。皆さんの連絡をお待ちしております。

